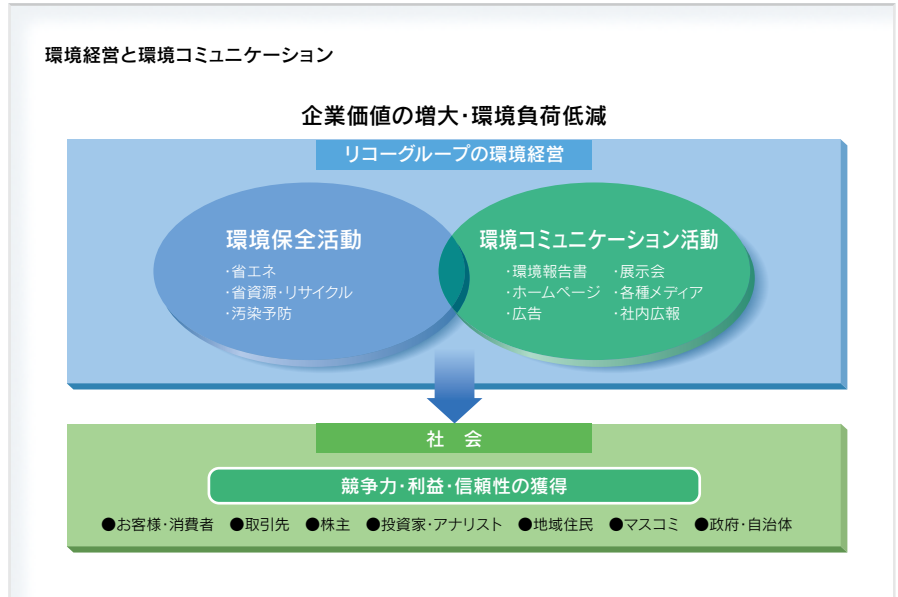


真摯な姿勢でコミュニケーションを図り、
環境保全活動の環を拡げていきます。

社会から存続を望まれる企業であるためには、実際に環境保全活動を推進すると同時に、考え方や活動内容を多くの方々に知っていただき、社会からの信頼を得ることが重要です。また、活動事例を積極的に社内外に情報発信することは、さらに活動を促進し循環型社会づくりにも貢献することになります。リコーグループは、環境コミュニケーションと環境保全活動は環境経営の両輪であるという考えのもと、真摯な姿勢でのコミュニケーションを通して環境保全活動の環を拡げていきます。



コミュニケーション活動

環境経営報告書の発行

《リコーグループ/グローバル》

リコーグループは、1996年度の情報を開示した環境報告書を1998年4月に発行して以来、毎年報告書を発行しています。2004年度からは、サステナビリティレポートとして、環境経営報告書、社会的責任経営報告書、アニュアル・レポートの3つの報告書を6月に発行しています。このサステナビリティレポートが、第10回環境コミュニケーション大賞で環境報告大賞（環境大臣賞）を受賞しました。リコーのサステナビリティレポートは、ホームページで請求することができます*。

* <http://www.ricoh.co.jp/about/request/index.html>

サイトレポートの発行

《リコーグループ/グローバル》

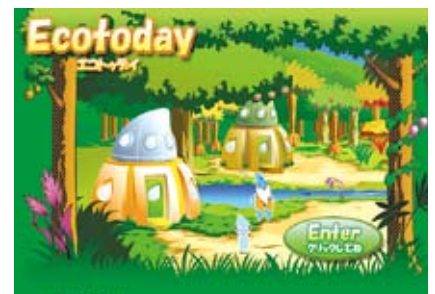
リコーグループでは、地域とのつながりを重視し、行政、事業所周辺の住民、社員の家族などとのコミュニケーション手段としてサイトレポートの発行を促進しています。2001年度には、「環境サイトレポート作成ガイドライン*」を作成し、グループ内で運用しています。2006年度は、新たにリコー販売が発行しました。リコー福井事業所は、第10回環境報告書賞でサイトレポート継続優秀賞を受賞しました。

* <http://www.ricoh.co.jp/ecology/report/site.html>

環境ホームページの公開

《リコー/グローバル》

リコーの環境ホームページは、グリーン購入法対応製品や最新のニュースなど、調べたい情報を誰でも簡単に探し出せるよう、「見やすさ」「わかりやすさ」「使いやすさ」にこだわって制作されています。また、子ども向けページECO TODAYの「テンペル・タツルストーリー」では、ロシア、中国、マレーシアや日本での森林生態系保全活動の内容をやさしく解説しています。クイズやゲーム形式で環境問題について学ぶこともできます。英語版ホームページも開設されており、各国の関連会社にもリンクされています。



<http://www.ricoh.co.jp/ecology/ecotoday/>

環境経営報告書の発行時期と発行部数

発行年	言語	発行日	部数	ページ	発行年	言語	発行日	部数	ページ
98年度版 リコーグループ 環境報告書	日本語版	1999.1	26,200	30P	リコーグループ 環境経営報告書 2003	日本語版	2003.6	21,770	84P
	英語版	1999.1	500		英語版	2003.9	7,000		
リコーグループ 環境報告書 1999	日本語版	1999.9	51,300	32P	リコーグループ 環境経営報告書 2004	日本語版	2004.6	18,790	84P
	英語版	1999.9	8,375		英語版	2004.9	7,000		
リコーグループ 環境報告書 2000	日本語版	2000.9	45,950	60P	リコーグループ 環境経営報告書 2005	日本語版	2005.6	18,535	84P
	英語版	2000.12	6,800		英語版	2005.9	7,000		
リコーグループ 社会環境報告書 2001	日本語版	2001.9	25,950	74P	リコーグループ 環境経営報告書 2006	日本語版	2006.6	17,380 (2007年4月末現在)	84P
	英語版	2001.12	7,000		英語版	2006.9	7,000		
リコーグループ 環境経営報告書 2002	日本語版	2002.7	21,315	84P					
	英語版	2002.9	6,000						

環境広告の実施

《リコー／グローバル》

リコーの環境広告では、リコーの環境経営のコンセプトを、実際の活動事例に基づいてお伝えするようにしています。2006年度は、2050年の環境ビジョンをテーマにした広告を実施しました。これは、環境問題を解決していくためには、長期的な視点での目標設定とそれに基づいた具体的な活動が必要である、というリコーの環境経営の考え方を訴求した広告です。環境広告は、日本はもちろん海外でも実施しています。

<http://www.ricoh.co.jp/advertisement/magazine/other.html>



環境ビジョンを紹介する雑誌広告



環境経営の事例を紹介する雑誌広告



環境経営の事例を紹介する雑誌広告

展示会への出展

《リコーグループ／日本・シンガポール》

2006年12月、東京ビッグサイトで開催された環境総合展示会・エコプロダクツ2006に出展しました。リコーの出展テーマは「環境は、待ってくれない。」で、カラーQSUにより省エネモードからの復帰時間を短縮したデジタルフルカラー複合機や、最大消費電力を大幅削減したジェルジェット型カラー複合機など、最新の環境技術と全員参加による環境経営実現に向けた取り組みを紹介しました。また、リコーアジアパシ

フィックとリコーシンガポールは、2006年10月、Suntec Singaporeで開催された「エコプロダクツ国際展 (EPIF) 2006」に出展しました。省エネ複合機「Aficio MP C1500、C3500/4500、SP C410DN」や植物由来プラスチック搭載の複写機、シンガポールでの社会貢献活動などの展示を行いました。



エコプロダクツ国際展リコーブース

子どもたちへの啓発活動

世界最大の高校生向け 科学コンテストに協賛

《リコーアメリカズコーポレーション／ グローバル》

米州の販売統括会社リコーアメリカズコーポレーション(RAC)は、「ISEF (International Science & Engineering Fair)」のメジャースポンサーです。ISEFとは、世界最大級の高校生による科学コンテストで、最終選考会には全米だけでなく全世界の40以上の国と地域から約1,500人の生徒が参加しています。RACは、2005年から、環境保全と持続可能性の重要性を啓発するために、「リコー・サステナブル・デベロップメント賞」を設けています。この賞は環境保全とビジネスを両立させる可能性の高い研究に贈られています。

2006年度の予選を勝ち抜いて最優秀賞を受賞したのは、生態系に関する研究を行なったアメリカの高校生、DJレイ・ホートンさんと、プラスチック再生に関する共同研究を行った、同じくアメリカのエミリー・レビンさんとダニエル・レントさんでした。授賞式は2007年5月17日にアメリカのニューメキシコ州・アルバカーキで開催されました。



(左から) Danielle Lentさん、Emily Levineさん、DJ Ray Hortonさん、RAC社員

小中学校の 環境活動の拡大をサポート

《リコー／日本》

リコーは、サンケイ新聞写真ニュースセンター主催の「学校自慢エコ大賞」に協賛しました。この賞は、全国の小中学校での環境保全活動の普及促進を目的にしたものです。2007年3月に第3回の表彰が行われました。リコーは、子どもたちに環境問題の重要性を訴え、一人ひとりの活動が地球環境を救うことにつながることを認識してもらうという趣旨に賛同し、協賛しています。